教育長定例記者会見　会見録

日時：令和８年１月１５日（木）１３時３０分～
場所：教育委員室

**発表項目**

・本よもうねっとＭＩＥ１周年フェスティバルを開催します
・令和７年度「現代的諸課題に関する教育推進事業」にかかる実践校オンライン交流会を開催します

**質疑事項**

・本よもうねっとＭＩＥ１周年フェスティバルを開催します
・令和７年度「現代的諸課題に関する教育推進事業」にかかる実践校オンライン交流会を開催します
・教育長の今年の抱負について
・教育長の任期について
・請願の処理について

<u>発表項目</u>

〇本よもうねっとＭＩＥ１周年フェスティバルを開催します

三重県教育委員会では、すべての人の読書習慣の定着に向けまして、さまざまな取組を進めています。このたび、昨年度発足しました「本よもうねっとＭＩＥ」の１周年を記念したイベントを開催いたします。「本よもうねっとＭＩＥ」というのは、配付資料の冒頭でも説明しておりますけれども、県民の読書活動を推進するため、家庭や学校、地域の方々、企業・団体などが連携、協働する緩やかなネットワークです。イベントの日時や場所はご覧のとおり、1 月 31 日土曜日、イオンモール鈴鹿での開催になります。３のイベントの内容のうち、重要なものについて触れます。（１）１階中央コートのメイン会場の内容、これが中心になります。まず、「わたしの好きな本大賞」大賞作品の表彰式を実施します。「わたしの好きな本大賞」は、これまでの記者会見でも申し上げてきましたけれども、好きな本への思いを表現した一言コメント部門とわたしのさし絵部門にて作品募集を行い、県民投票を経て、受賞作品を決定したものです。県民投票では 9,353 票もの投票をいただきました。どなたが受賞されたのかにつきましては、表彰式前日の１月 30 日にプレスリリースさせていただく予定です。メイン会場ではこのほか、伊勢市出身の小説家はやみねかおるさん、津市出身の作家村上しいこさんの、人気作家２人によるトークショー、それから大台町出身の絵本作家浦中こういちさんのステージショーなども実施予定です。 もう１つ重要なイベントについて触れたいと思います。（５）２階未来屋書店のサテライト会場における、上から３つ目のポツ、高校生ビブリオバトル未来屋書店鈴鹿店大会ということで、県内の高校生による書評合戦

「ビブリオバトル」を開催いたします。本よもうねっとＭＩＥ１周年フェスティバルは、ほかにも、読書にかかるさまざまなプログラムやブースが出展されるなど、本に親しむ内容となっています。参加費は無料でどなたでも参加いただけますので、奮ってご来場いただければと思います。

**○令和７年度「現代的諸課題に関する教育推進事業」にかかる実践校オンライン交流会を開催します**

この「現代的諸課題に関する教育推進事業」というのは、なかなか面白い事業でありまして、１の要旨にありますように、児童生徒が郷土への愛着や関心を持ち、地域で働くことを重要な選択肢ととらえることができるように、地域と連携した郷土教育・キャリア教育を進めるものです。簡単に言いますと、地元企業と連携して、課題解決型の探究学習を小中学校レベルでもやろうということです。小学校まで対象に含めたのは、去年からです。２の実施内容は大きく２つありまして、１つは実践校３校による成果発表、もう１つは外部講師による講話です。３の実践校及び研究テーマをご覧ください。学校の連携相手に注目いただきますと、亀山市立昼生小学校が地元和菓子店生甘堂さん、鳥羽市立鳥羽小学校が鳥羽磯部漁協、鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校が伊勢型紙協同組合となっています。亀山市立昼生小学校の取組は、教育委員も含めて私たちも視察に行かせていただきまして、授業も拝見しましたけれども、和菓子屋の店主が直接教壇に立って、子どもたちの和菓子づくりを企画段階からご指導いただきました。開発された商品は、実際に和菓子屋さんで販売されまして、私も購入させていただきました。非常に美味しかったです。買いに行くと、店先に小学生が詰めていまして、レジ打ちもしてくれました。最後まで行き届いたキャリア教育が実施されているなと実感したところであります。この交流会の開催日時や場所ですが、２月９日、県庁７階第一会議室からのオンライン開催になります。会場や実践校にも取材いただきますと、子どもたちの達成感や自己肯定感も高まると思いますので、積極的に取材いただければ幸いです。

<u>**発表項目に関する質疑**</u>

**○本よもうねっとＭＩＥ１周年フェスティバルを開催します**

（質）この本よもうねっとＭＩＥが発足したのはいつですか。

（答　社会教育・文化財保護課）令和６年 10 月 27 日です。

（質）教育委員会が設けたということになるのですか。

（答）県教育委員会が主導して発足しました。

（質）構成団体はどのような団体で、いくつありますか。

（答）12 月 31 日現在で、総数はちょうど 500 です。個人会員が最も多く 106。行政機関が 29、図書館が 25、児童館等が 138、企業が 41、直接加盟していただいている学校が 135 などです。

（質）個人とは、例えばどんな方ですか。

（答　社会教育・文化財保護課）個人で入られている学校の先生や民間企業の方、読書ボランティアの方もいらっしゃいます。
（質）そういう方も含めて、500 者ということですか。
（答　社会教育・文化財保護課）そうです。
（質）本よもうねっとＭＩＥのメンバーは何と表現しますか。
（答　社会教育・文化財保護課）本よもうねっとＭＩＥの会員と呼びます。
（質）行政機関といいますと、市町ですか。
（答）県内の 29 市町です。
（質）個人の方は、県外の方もいますか。
（答　社会教育・文化財保護課）いらっしゃいます。
（質）本よもうねっとＭＩＥでは、これまでどんな取組をしてきましたか。
（答　社会教育・文化財保護課）読書活動の推進について取り組んでいる団体と連携したり、そうした団体をつないだりしています。例えば、いらなくなった本を集め、必要な方に渡すブックドライブという取組や、読書の大切さについての講演会といった活動をしています。
（質）「わたしの好きな本大賞」の大賞の受賞者はそのとき発表されるのですか。
（答）前日に発表します。
（質）目玉のイベントは、作家のトークショーですか。
（答）そうです。はやみねかおるさんと村上しいこさんのスペシャルトークショーが、メインのイベントです。
（質）はやみねさんは児童小説で有名な方ですよね。
（答　社会教育・文化財保護課）ジュブナイルミステリーを主として、児童向けの本を多く書いている方です。
（質）はやみねさんは、三重県内の方ですか。
（答）伊勢市出身です。
（質）それぞれのプログラムやブースで、定員があったり、先着順とされていたりしますけれども、例えばどんなものに参加できますか。
（答　社会教育・文化財保護課）先着 50 名としているスペシャルトークショーは、事前申込み制ではなく、当日の先着順です。ワークショップとステージショーについては、事前申込み制で、定員に達しています。
（質）例えば、スペシャルトークショーは、インターネット中継で見られたり、動画で配信したりはありますか。
（答　社会教育・文化財保護課）特にインターネット中継は予定していないのですが、座席に座って聞けるのが 50 名です。立ち見や２階からも見ていただけますので、実際には 100 名程度がご覧になれると思います。
（質）あくまで座席ですから、立ち見でよければ周辺でいくらでも見ることができるという

ニュアンスでいいですかね。１周年ということですけど、今回のイベントを通じて、お子さんにどういう思いを持ってもらいたいと教育長はお考えですか。

（答）この取組自体は子どもだけが焦点ではなくて、社会全体に対するＰＲなのですけれども、読書をあまりしない人にとっては、読書するきっかけになってほしい。また、今読書をしている人にとっては新しい本と出会うきっかけになってほしい。それから、「本よもうねっとＭＩＥ」というものの存在を知ってもらって、加入するきっかけになってほしい。いろんなきっかけになってほしいと思っています。

（質）教育長が最近読まれた本で、印象的だったものはありますか。

（答）最近読んでいるのは、業務に関するものばかりです。

（質）例えば、どのようなものがありますか。

（答）朝日新聞の記者が書いた、「なぜ今、労働組合なのか」という本を読みました。

**〇令和７年度「現代的諸課題に関する教育推進事業」にかかる実践校オンライン交流会を開催します**

（質）小中学校で企業と連携した探究学習は、全国的にはどれぐらい実施されているのですか。

（答　小中学校教育課）特に全国でというのは把握していないですけれども、県内でいうと９割以上の学校が、郷土教育であったり、地域と連携しながら取り組んでいたりしています。企業との連携で言えば、例えば地域の農家の方も含めて、取り組んでいます。

（質）地域に戻ってきて、働いてもらいたいという狙いもあるかと思いますけれども、実際県内出身の人はどれくらい三重県の企業に定着しているでしょうか。

（答）高校を進学して大学に行く人の７割は県外に出て行ってしまって、その７割出て行った人のうち、県に戻ってくるのは３割程度という数字があります。あと、高校を出て即就職する人は、88％程度が県内に就職しています。大学に行く人に、いかにＵターンしていただくのかというのが三重県の課題です。

（質）その数値は県教育委員会調べですか。

（答）これは知事部局が、人口減少対策関係でつかんでいる数字です。

（質）研究テーマを各校で設定されていますが、そういうテーマになった経緯はわかりますか。

（答　小中学校教育課）各学校がそれぞれ、地域の実情も含めて設定しています。

<u>その他の項目に関する質疑</u>

**〇　教育長の今年の抱負**

（質）今回、教育長として年頭の記者会見ということですので、今年の抱負や、新たに取り組みたいこと、意気込みを含めてお聞かせください。

（答）今年の抱負というか、いつもそうですけれども、３本柱と考えているのは、しっかり

と将来を見据えて教育の中身を充実させていくということが１つ。教育の阻害要因をなくす、つまり生きづらさを抱えている子どもたちを誰一人取り残さないことを進めることが２つ目。そして、教育の基盤となる教員や学校に関して、しっかりと万全を期していくことが３つ目。前々からの方針ではありますが、この３つの柱を中心に今年もしっかり進めていきます。目の前にある大きな課題としては、不登校の問題、教員不足の問題、高校再編の問題、この３つが一番大きいと思っております。不易流行を意識しまして、昔から脈々と受け継がれている良いものはしっかりと受け継いでいきたいし、課題になっているところにはしっかりと手を入れていきたいです。

（質）今年は何かこういったイベントがあるので、それに向けて取り組まれたいというような具体的な事業はございますか。

（答）いろいろと考えているのですけれど、１つは三重県誕生 150 周年記念事業がありまして、子どもが主役ということが標榜されておりますので、私どももしっかりと協力をして、予算も要求しているところです。認められましたら、150 周年に向けて取り組んでいきたいと思います。

（質）予算要求しているという話ですけれども、150 周年に関して、教育委員会としては、どういった取組をしたいのですか。

（答）県立学校において、探究学習の中で県に関することを題材にして、しっかりと学習していただくための予算要求をしています。

**○　教育長の任期について**

（質）今年は、教育長ご自身が、任期を迎えられると思うのですが、続投については。

（答）いろいろな憶測を呼ぶといけませんので、ノーコメントとさせていただきます。

（質）任期満了とは別に、あくまで教育長ご自身の意見として、後継としてふさわしい方はどのような方だと考えていますか。

（答）やはり教育に関して、造詣の深い方がよいと思います。児童生徒主体で考える人、教育現場のことをよく考える人がいいのではないかと思います。

（質）教職出身者かどうかというところは。

（答）ふさわしい人がいたら、どこの出身でもいいと思います。

**○　請願の処理について**

（質）主務教諭に関して請願がされていますが、まず主務教諭という新たな職はどういうものなのかということと、三重県として新設する可能性があるかはいかがですか。

（答）今の学校現場は、管理職が校長と教頭で、下には教諭だけですけれども、少し前に主幹教諭が作られて、教諭より少し上の役職ができています。主幹教諭と教諭の間に、主任や主務というような教諭の職を作っていこうというのが主務教諭です。今日の請願は、そういう職を作らないでほしいというものですけれども、我々も今から検討してい

くところですので、いただいた意見も参考にしながら、これから検討していきますということで、不採択とさせていただきました。

（質）具体的に新設するもしないも、まだ結論が出ていないということですか。

（答）結論は出ていません。他県の状況も見ながら検討する予定です。

以上、１３時５３分終了